



情報FUKUOKA 2013 新年号

トライ



発行者

九州旅客鉄道労働組合
福岡地方本部

発行責任者 岩永康志
編集責任者 宮路享

北九州市小倉北区室町3-137-1
NTT (093) 583-3385
JR (091) 4307~4308

結成20年の節目にむけ、更なる飛躍を



撮影:小倉運転区分会 戸田 誠二さん

「責任」をキーワードに力を注ぐ

岩永執行委員長 年頭あいさつ

組合員・家族の皆さま、明けましておめでとうございます。本年もみなさまに、幸多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

課題解決にむけ、組織の総力をあげて取り組もう

今年から20世紀生まれの小学生はいなくなります。一つの時代の大きな流れを感じざるを得ない心境です。社内制度に止まらず、国政や社会保障制度においても、重要な節目となる2013年を迎えるにあたり、本年も数多くの課題解決にむけて、組織の総力を挙げて、持てる力を存分に発揮していかねばなりません。

北九州市議選をはじめ、関係する中間地方選挙、参院選に勝利しよう

さて、福岡地方本部のおひざ元、北九州市におきま

しては、2月10日に市制50周年を迎えます。その前段で繰り広げられる、北九州市議選はもちろんのこと、関係するすべての中間地方選挙での勝利と、今夏に行われる参議院議員選挙において、確実な役割を果たすことが、私たちの労働環境を改善していくために必要かつ、重要な共通課題であることは言うまでもありません。

次代を担う役員・活動家作りの土台をしっかりと

また「福岡地方本部版・組織見直し」を着実に実践し、次代を担う役員、活動家づくりの土台をしっかりと作り上げていくための大事な年でもあります。まさに将来を占う一年になることとしましょう。

引き続き「人材育成」を目標に「責任」をキーワードとして、執行部一同あらゆる活動に力を注いでいく決意です。



イラスト 博多新幹線乗務所分会 平野 啓介さん



私たちのまち、ともにつくります ばば一榮、7期目の挑戦へ



新年号特別企画。任期満了に伴い、1月27日に投票の北九州市議会議員選挙。今回7期目の挑戦となる、福岡地方本部議員団会議で団長を務める馬場一榮(ばばかずひで)氏と、福岡地方本部の岩永康志執行委員長に、これまでの議員活動と選挙に懸ける熱意を語り、JR九州労組としての取組みを語っていただきました。
(聞き手) 宮路 享



いよいよ北九州市議会議員選挙が行われます。これまで24年間の議員生活を振り返っての感想をお聞かせ下さい。

馬場 一生懸命走り続けて、あつという間の24年でした。

今回7期目の挑戦となります。馬場さんは議員に当選される前は国鉄で働かれていらしたと伺っています。

馬場 国鉄時代は下関工務局で、土木関係の仕事に携わっていました。調査課という部署で門司操車場の自動化や大分高架事業などの大規模土木工事を手がけました。特に大分高架事業に対しては、昭和50年に当時300万円の予算で調査を行い、今工事が行われている。38年前に自分が手がけたことが、近々実現しようとしている。これは感動でした。

国鉄在職時は、仕事と同じように組合運動も熱心に行っていたら、組合活動も熱心でしたね(笑)。当時は25歳で国鉄の中央支部の青年部長を

3年務めました。デモの思い出もありませんが、(笑)でも僕たちの工務局は非現実だったから、闘争に入っても、仕事は待ってはいられない。だから、家に仕事を持ち帰ってやってました。その辺に矛盾は感じましたけどね。

北九州市議会に初挑戦されるきっかけをお聞かせ下さい。

馬場 当時、国鉄出身の市議が落選しました。その2年後に自民党の市議が亡くなり、補欠選挙が行われることになった。そこで、補欠選挙に出してみたいかと。昭和62年の国鉄分割民営化のときだったから、30歳でした。

これまでの議員活動のなかで、重点的に取り組んでこられたことなどをお聞かせ下さい。

馬場 やはり門司港レトロですね。門司地区は鉄道と貿易で栄えてきた街ですから、寂びれてきた街をなんとか活性化させよう。そこで港・鉄道100周年の博覧祭をしようと計画したんだけど、福岡市のアジア太平洋博覧祭(よかとぴア)と重なってしまつて。だから博覧祭はせずに、街をレトロ化して、活性化させようと提案しました。平成4年にレトロ列車を提案し、平成20年に実現しました。門司港レトロは今、年間200万人の来場者で賑わっていますが、これを500万人まで増やしたいですね。後は、弱者対策、特にホームレス支援に取り組みできました。当時、ホームレスの支援を行っていた越冬実行委員会という団体があったんです。ボランティアでやっていて、財政的に持たなくなつてしまつて。そこで、NPO法人化を進めたんだ。けど嫌がられちゃつてね。(笑)当時は、会社ひとつ起こすほどの膨大な資料が必要だったみたいで。でも1年後に、市長に直談判に行つてNPO法人化にこぎ着けました。当時、北九州市は400人を超えるホームレスがいたんですが、現在は100人前後と確実に減少してきています。

北九州市は今年で市政50周年を迎えますね。

馬場 そうですね。2月10日で、市制50周年を迎えます。今、それに併せて様々なイベントが企画されています。再来年の2月9日にはシティーマラソンが予定されていますので、県内外から多くの参加者が見込まれますから、経済効果も相当なものと思われれます。

東日本大震災以降、震災対策の受け入れも、いち早く表明した北九州市ですが、様々な意見もあつたことだと思いませんか。

馬場 私は熊本県玉名市の出身なんですが、昭和38年でしたかね。熊本大水害

というのがありまして、実家近くの川が決壊して床上浸水しました。水に浸かりながら、家族で逃げたんです。翌日、様子を見に帰ると、辺り一面ガレキの山で、そこに自衛隊の救援ヘリが飛んできて、救援物資を運んでくれた。このときは嬉しかったですね。このような経験をしているから、東日本大震災の翌日に、被災地に向けて飛び立った。これまで4回被災地に向かいましたけど、災害に対してはなんとかしたいという強い思いがあります。ガレキに関して、自民党が単独で受け入れるの意見書を提出しようとしていたんだけど、私も意見書を持っていたので、公明党・共産党などに働きかけて、意見書をまとめ、全会一致にしました。

JR九州労組は、北九州市議会議員選挙に、様々な選挙に取り組んでいますが、労組が選挙に取り組まないという理由を教えてください。

岩永 私たちの働く環境と生活環境の改善を実現させていくためには、多くの方々に私たちの主義・主張を理解して頂くための活動が欠かせませんし、労働条件に直結する経営支援策の実現を果たしていくためには、各級議員の皆さまの一人でも多くの理解と協力が不可欠です。今後とも、私たちは、自らの労働条件を改善していくために、各種選挙に取り組んでいかなければなりません。

昨年、固定資産税の減免を求めた税制特例の恒久化を求めて、沿線自治体への意見書採択を要請しました。国に対しての要請ではなく、自治体への要請を行った。これはなぜなのでしょう。



岩永 地方自治体にとって貴重な税収である固定資産税や都市計画税を、今までどおりの減免にすべきとの多くの声と合わせて国に求めていくことにより、特例措置をやめたいと考えている財務当局への要請行動に大きな力となるようにとの思いと、JR九州の現状と課題について、沿線自治体の議会において議論されることにより、さらに理解が深まることも期待をして運動を展開しました。

北九州市においても、馬場さんから議会に働きかけていただきましたね。

馬場 今回で4回目の意見書になりましたが、固定資産税というものは、地方税です。減免することによって、自治体の税収もダウンすることになる。しかし、北九州においてはJRが交通の基本であります。鉄道によって街が発展してきた。だから自治体にとっても苦渋の選択だったわけです。

今回の税制特例措置、私たちが求める恒久化には至りませんでした。3島特例など、従来と同様の5年間の延長となりました。これはやはり民主党政権だったからこそ実現したんですね。

岩永 そのとおりです。国としても税収が大変厳しく、国の借金も増え続けるなかで、発足して25年にも

なつてまだ?といった圧力は凄まじいものがありました。それを21世紀の鉄道を考える議員フォーラムの九州選出の先生方が、大激論を重ねながら、関係各所の理解を取り付けて頂きました。大変感謝しています。

今回の取り組み、5年後も同じような要請行動をしなければなりません。会社は「2016」のなかで、株式上場の実現を初めて明記しました。上場が実現すれば、三島特例など、各種経営支援策の取り扱いはどうなるのか、気になるのですが...

岩永 この点については、経営支援策の意義と目的をしっかりと踏まえた対応と結果を求めていくことが基本だと考えています。議員の皆さまに対して、JR九州の現状と課題について、理解と協力を求めています。活動を継続させ、具体的な課題解決に即座に取り組んで頂けるように、あらゆる努力を惜しまず活動していきたくです。

馬場さんは、門司区選出ですが、有権者に何を訴えていますか?とお考えですか?

馬場 「私たちのまち、ともにつくります」これにきます。具体的には、今の少子高齢化社会では、行政で対応できることは限界がある。だから全学区に市民センターを作つて、地元住民の方たちと、何が出来るか話し合っています。私も地元校区の役員をさせていただいてますが、非常に大変なんです。また、町内会の加入率の低下と高齢化によって、機能しなくなりつつあります。町内会に入っていない、2週間に1回、市政だよりとか回覧できるし、住

民の安否確認もできるわけなんです。私は、議会で総務財政委員長をさせていた入ることによつてのメリツトもあつていいと訴えています。例えば、以前は町内会に入っている家庭には、ゴミ袋を配ってましたが、有料化になつて、それがでなくなつた。でも、インセンティブみたいな感じで配布してもいいんじゃないかと。また、お世話をする役員も高齢化が進むと、班としての機能も成り立たなくなつてくる。だからなんとか地域のコミュニケーションを維持していくために、校区の役員と町内会が一体となつてやっていると聞きます。私の校区もグラウンドゴルフや、ラジオ体操などを計画して、住民が参加しやすい体制づくりに努めています。ですが、いかに参加して欲しいか、大切なのは地域が企画して、行政がそれに對して知恵とお金を出してやっていく。それが大切だと思います。それが、婚活事業は是非やりたいですね。昔は地域でお世話する人がいたけれども、今はそういう方がいないです。だから、出会いの場を設定し、婚活に繋げていく。それが少子化への歯止めにもなります。

最後に、支援していただいている組合員みなさんに、一言お願いします。

馬場 いつもご支援いただきありがとうございます。北九州の公共交通体系の確立にむけ、精一杯頑張りますので、変わらぬご支援をお願いいたします。

お忙しいなか、ありがとうございました。